

『英文解体新書2 ——シャーロック・ホームズから始める英文解釈』 誤記・誤植のお詫び

(2021年5月7日)

『英文解体新書2 ——シャーロック・ホームズから始める英文解釈』初版（と、これから刊行される第2刷）の本文中に下記の誤りがありました。お詫びして訂正致します。以下の訂正は第3刷より反映される予定です。

<誤植の訂正>

- ①20頁 [第2文]という見出しのあとの7行目 some feelings → some **feeling**
- ②38-39頁 you might…/ you might even say/ you…say → youを**I**に変更（合計で8箇所）
（いずれも課題文の形が正しい）
- ③246頁上から7行目 though→**through**

<誤記の訂正>

- ④84頁6-7行、85頁10-11行目 例のもう1つの最近の事件→例のもう1つの最近**発表した方**の事件
（赤字部分を追加。「グロリア・スコット」号の事件は、「緋色の研究」よりも前に起こった事件だけれど、ワトソンが公表したのは「緋色」を発表したあとのことなので）
- ⑤167頁訳例の7行目 原始の地形→原始の**陸上生物**

<追加>

- ⑥117頁下から5行目「だった。」のあとに、以下を挿入。

ホームズは冷静かつ厳粛で黙り込んでいた。

（訳抜けでした）

①②を葉書で指摘して下さった仙台市のSさん、twitterの書き込みで、③⑤を指摘して下さった「I am a cat」さん、④を指摘して下さった「くうまん」さん、⑥を指摘して下さった「ル・プチ・プランク」さん、ありがとうございます。

(編集部)